

胃がん(胃腫瘍)に対する腹腔鏡下胃切除術(ロボット支援下手術を含む)の有用性に
関する臨床研究
—ご協力のお願い—

杏林大学医学部附属病院上部消化管外科では以下の臨床研究を行っております。この研究は「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」(文部科学省, 厚生労働省)に基づき、患者さんから同意を頂くことにかえて情報を公開することにより実施しております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら下記の問い合わせ先までご連絡ください。

【研究課題名】

胃がん(胃腫瘍)に対する腹腔鏡下胃切除術(ロボット支援下手術を含む)の有用性に関する臨床研究

【研究の意義・目的】

胃癌腹腔鏡下胃切除術は胃癌 1991 年に日本で開発され、以降国内で広く行われるようになっていきます。近年では手術のアプローチ法としてロボット支援下による胃切除術も全国で導入されています。わが施設で行われている腹腔鏡下胃切除術(ロボット支援下手術を含む)の手術成績と問題点を明らかにすることで手術成績の向上と発展に寄与すると考えています。

【研究の方法】

2007 年 10 月から 2027 年 9 月末までの期間に当科で胃がん(胃腫瘍)にたいして腹腔鏡下手術(ロボット支援下手術を含む)を施行された患者さんが対象になります。

【研究期間】

杏林大学医学部倫理委員会承認後 2027 年 9 月末まで

【利用する項目】

診療記録(生存・再発に関する追跡調査)、検査データ、病理組織結果

【個人情報の取り扱い】

本研究は、あなたのカルテや病院記録などの診療録を利用する観察研究ですが、プライバシーの保護には十分配慮致します。この研究を通じて得られたあなたに関する記録は、研究事務局に集められて保管されますが、あなたのお名前はわからないようになっていますし、研究の管理者以外の目にふれることはありません。

この臨床研究の結果は雑誌や学会で報告しますが、その時もあなたの名前や個人を特定できる情報は使用しません。

【研究への参加を希望されない場合】

今回の研究へ参加を希望されない患者さんは、下記の研究責任者までご連絡ください。患者さんに関するすべての医療情報の登録の中止と削除を速やかに行います。また、研究への不参加が今後の診療に不利益になることは一切ありません。

【研究内容の開示について】

本研究の研究計画書は杏林大学医学部附属病院ホームページの上部消化管外科から閲覧することができます。

【この研究の倫理審査について】

この研究は、杏林大学の医学部倫理委員会によって、研究計画の妥当性が評価されており、患者さんの権利が守られていることや、医学の発展に役立つ情報が得られることなどが検討され、実施が認められています。

【本研究に関する問い合わせ先】

杏林大学医学部消化器・一般外科学教室

研究責任者 橋本佳和

〒181-8611 東京都三鷹市新川 6-20-2

TEL : 0422-47-5511

E-mail : hashimoo@ks.kyorin-u.ac.jp